

提出日： 2023 年 6 月 5 日

## 研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
商学部	教授	西川可穂子

研究期間	以下1～4より、取得した研究期間を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2022年4月 1日 ～ 2023年3月31日 2. 2022年9月 1日 ～ 2023年8月31日 3. 2022年4月 1日 ～ 2022年9月20日 4. 2022年9月21日 ～ 2023年3月31日
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的に記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるように記入ください。
	研究期間中には、プラスチック海洋汚染と河川の薬剤耐性菌に関する2つのテーマで研究および今後の研究計画を立案しました。 プラスチック研究では、英国ケンブリッジ大学で Professor Ronan Daly, および Dr. Phipps と共同研究を行いました。また、薬剤耐性菌については、Professor Martin Welch (Department of Biochemistry) と共同研究を実施しました。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果について記入ください。
	プラスチック研究では、研究成果をマレーシアで2022年10月19日に実施された APEC のセミナー”Marine debris management and monitoring from source as river is the major transport pathway”において、”Study of Riverine Litter: Composition and Generation”というタイトルで発表しました。 また、薬剤耐性菌の研究においては、環境水中の薬剤耐性汚染のモニタリング手法に関する研究を実施しました。環境 DNA と薬剤耐性菌から抽出した DNA との比較で、どちらが効率的に薬剤耐性遺伝子を検出できるか検討し、論文にまとめました。現在、論文投稿中です。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を進展させる計画か、記入ください。
	プラスチックの海洋汚染については、2023年8月に英国ケンブリッジ大学でワークショップを開催する計画になっています。 また、薬剤耐性菌については、臨床の薬剤耐性が問題となっている <i>Pseudomonas aeruginosa</i> を土壌や河川環境から分離し、その薬剤耐性特性を明らかにする研究計画があり、7月から8月にかけて現地で実施する予定である。